

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成30年 5月26日現在

機関番号：14403

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370234

研究課題名(和文) 瓦版・おもちゃ絵版画を中心とする資料による近世流行歌謡史の構築

研究課題名(英文) The Formulation of a New History of the Modern Popular Songs by the Materials in Kawaraban, Omochae, etc.

研究代表者

小野 恭靖 (ONO, Mitsuyasu)

大阪教育大学・教育学部・教授

研究者番号：50194600

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：江戸時代後期から明治時代初期にかけて刊行された瓦版、おもちゃ絵を調査し、その中に摺り込まれた流行歌謡の歌詞を丹念に発掘した。その調査の結果、歌い捨てられ、時代の変化とともに忘れ去られていった流行歌謡の存在を明らかにし、それらの歌謡によって新たな近世歌謡史の一齣を構築することができた。

また、庶民生活や生き方に関わる教訓的な歌謡を収録した版本に焦点を合わせて調査することによって、流行歌謡の持つ性格の一面を浮き彫りにすることもできた。

研究成果の概要(英文)：I studied Kawaraban and Omochae, which had been printed from the late Edo period to the early Meiji period. The lyrics of the popular songs, which had been unknown for a long time, were discovered by the research. They can add new information to the history of the modern popular songs.

I also studied the printed moral books concerning the lives of the ordinary people. This research reveals one aspect of the popular songs.

研究分野：日本古典文学

キーワード：近世歌謡史 瓦版 おもちゃ絵 流行歌謡 教化 道歌 木版画

1. 研究開始当初の背景

江戸時代に流行した歌謡(以下、“近世流行歌謡”と呼ぶ)は多種多様にのぼる。初期の弄斎節、片撥、投節、菅笠節、加賀節、継節、かはりぬめり歌、のほほん節や中後期の小六節、小室節、潮来節、有馬節、末期のせんだい節、尾張甚句、大津絵節、よしこの節などが近世流行歌謡の代表格である。それらの歌謡は後の明治時代以降の歌謡や芸能に大きな影響を及ぼした。すなわち、近世流行歌謡は近代歌謡の母とも呼ぶべき存在であった。

歌謡とは常に流行時代を生きた人々の喜怒哀楽を歌うもので、それを歌い聴く人々の生活や人生とともにあった。つまり、それぞれの歌謡はその時代の精神や人生観を写す鏡であったと言える。したがって、日本人の人生観、死生観、精神史を捉えるためには、流行歌謡に関わる根本的な資料調査が幅広く行われる必要がある。

しかし、近世流行歌謡を含む資料は膨大な数量にのぼり、今日に至るまで全体の中のごく一部分に相当する歌謡が紹介されるにとどまっている。また、従来の近世流行歌謡の研究では、単独の歌謡が具体的な歌詞を伴って紹介された少例はあるものの、史的展開や同時代の歌謡相互の横のつながりを踏まえて調査が行われたことは皆無と言ってよい状況にある。

2. 研究の目的

研究開始当初の背景で示したような研究状況を踏まえれば、まずは全国各地にある図書館・文庫等の協力を得て、関連する歌謡資料の発掘と調査を行うことが求められていると言える。しかし、歌謡を含む資料といっても、それこそ膨大な数量に上るので、本研究では瓦版・おもちゃ絵版画に特化し、それら資料の中に収録される近世流行歌謡の調査を行い、当該資料中の近世流行歌謡の紹介

と位置付けを行うことを最大の目的とすることにした。それは年数が限られた本研究においては、近世流行歌謡の歌謡としての特性に焦点を合わせ、瓦版やおもちゃ絵版画といった当代社会の関心の動向を色濃く反映した資料の調査を中心に行うこととした。最初の2年間で大量の資料を所蔵する機関の蔵書調査を実施し、文献写真の収集を行った。そして、残る2年間で少量かつ貴重な資料を所蔵する機関の調査及び文献写真の収集を遂行することを志した。また同時に、古書として市場に出回っている瓦版やおもちゃ絵版画といった文献資料を購入収集することも併せて行うこととした。

また、後半の2年間では調査を終えた資料の整理と分析を進めるとともに、周辺の文学資料や歴史史料を参照する作業を併せて行うことで、近世流行歌謡の史的な展開について立体的な位置付けを行うことを目指すこととした。本研究では文献調査の段階から始め、周辺の文学資料・歴史史料によって、その流行の実態を浮き彫りにし、史的な展開を明らかにするところまでを目標に定めた。以上のような調査研究を遂行することによって、今日まで体系的な研究が進められていない状況にある近世流行歌謡に属する歌群の沃野を開拓し、歌謡史に新たな記述を多く加えることを目指した。

歌謡史に新たな記述を加えることが可能になれば、それに伴って江戸時代の都市及び地方の風俗・文化・宗教・道徳、さらには子どもをめぐる環境といった多方面への接近も容易になり、流行歌謡という側面から江戸時代の人々の精神史に切り込むことも可能となるはずである。以上のような研究を推進することによって、従来の近世文学全般の研究や江戸時代全般の研究にも新たな地平が開かれることになることが期待できる。

3. 研究の方法

日本全国各地に残る近世流行歌謡に関わる文献資料のうち、瓦版・おもちゃ絵版画を中心とした資料を、全国各地の図書館・文庫等を訪ねて閲覧・調査する。そして、所蔵機関の許可が得られる資料については、電子複写もしくは写真撮影によって収集する。なお、資料の収集に際しては文献複写や写真撮影に関わる各機関専属の業者が存在する場合には、それらの業者に委託し、存在しない場合には、自ら機材を持参して撮影を行う。そして、所蔵機関の許可が得られる場合には、資料調査の成果の一端を論文発表し、インターネット上で公開する。また、調査と並行して、古書として市場に出回る近世流行歌謡に関連する文献資料や絵画資料を購入して収集することも行う。

4. 研究成果

全国の図書館や文庫に所蔵される瓦版・おもちゃ絵版画を中心とした近世流行歌謡関連資料の文献調査を行った。また、所蔵機関の許可が得られた文献資料については、複写・写真撮影・現像・焼付による資料収集を行った。

平成 26 年度は基礎的な資料の閲覧・調査を中心に研究を行った。具体的には夏季と冬季の 2 回にわたって集中的な資料調査を実施した。

夏季の調査は関西圏に所在する阪急池田文庫と西宮市立郷土資料館の二か所、及び金沢市内の金沢市立玉川図書館附属近世史料館、石川県立図書館の二か所を訪問して、資料の閲覧調査を実施した。阪急池田文庫では『一休狂歌雀』（江戸時代後期版本）、西宮市立郷土資料館では『白挽唱歌』（江戸時代後期版本）、金沢市立玉川図書館附属近世史料館では西尾文庫本『一休狂歌雀』（江戸時代後期写本）及びその他複数の江戸期歌謡資料、石川県立図書館では季花亭文庫本『うすひき歌信抄』（江戸時代後期版本）、小倉文庫

本『うすひき歌信抄』（江戸時代後期版本）、縣人文庫本『瓦版はやり唄虎列刺もの』（明治時代初期版）等の閲覧・調査を行った。調査の結果、諸本の系統や成立をめぐる前後関係等について様々な新知見を得ることができた。また、これまであまり知られていなかった江戸時代末期から明治時代初期にかけての流行歌謡資料の新発見があり、きわめて有意義であった。

冬季の調査は東京で実施した。東京都立中央図書館の特別資料文庫において江戸時代末期の瓦版を多数閲覧し、そのうち歌謡研究に関わる資料の複写を行った。また、国文学研究資料館においても瓦版やおもちゃ絵を閲覧し、歌謡研究に関わる資料については複写を行った。さらに、出光美術館において物語絵の特別展の展観を通じて、絵画と文学との関連について考察を深め、流行歌謡史構築のための参考とすることができた。

平成 27 年度も前年度に引き続き基礎的な資料の閲覧・調査を実施するとともに、流行歌謡と密接に関わる瓦版・おもちゃ絵を中心とした古典籍資料の購入収集を行った。

資料の閲覧・調査は、石川県立歴史博物館、石川県立図書館、金沢市立玉川図書館、国立国会図書館東京本館、東京大学史料編纂所、東京大学総合図書館、東京都立中央図書館、国立国会図書館関西館、大阪府立中之島図書館で実施した。その際、調査の対象資料を瓦版・おもちゃ絵に限定せず、版本や写本で残された道歌資料にまで広げた。その結果、従来未紹介であった数多くの資料の存在を確認することができた。当初予定していた研究構想と比較して、よりすそ野の広い研究とすることができたと考える。

古典籍資料の購入収集も並行して行ったが、『おばこ節』『日清じけんしりとりぶし』『ゑんかいぶし』『しん板うたづくし』『開化教育鞠唄』『新作阿保多羅経』などの貴重な文献資料を収集することができた。これらに

については今後内容を精査し、順次紹介する作業を進めていきたい。

以上の成果をもとに単書『歌謡文学の心と言の葉』（和泉書院）を、科学研究費補助金の研究成果公開促進費を獲得して出版した。本書には本研究助成によって調査を行った石川県立歴史博物館、石川県立図書館、東京大学総合図書館での閲覧・調査の成果が多く含まれている。具体的には『一休狂歌雀』、『白挽唱歌』、『うすひき歌信抄』の諸本を調査し、異同箇所を分析することにより、その成立過程を明らかにすることができた点が挙げられる。また、雑誌論文「明治時代流行歌謡のおもちゃ絵資料」（『学大國文』第58号）も執筆した。同稿では『新板おやまかぶし』、『流行ちよいとちよいとぶし』という二種類の資料を紹介し、歌謡史の中に位置づけた。さらにこの年度には、芸能である太鼓踊りの歌謡詞章を解説した『吐山の太鼓踊り調査報告書』を共著として刊行したが、そこには近世歌謡からの視点が多く含まれており、本研究によって得られた成果が色濃く反映している。

平成28年度も前年度までと同様に瓦版やおもちゃ絵版画を中心とした文献資料の閲覧・調査と写真の収集を行った。訪書地としては東京都と静岡県を選んだ。まず、江戸東京博物館において『三芝居役者給金附 三ヶ津遊女直段附 手満理歌出世双六』、『とちりんとん判じ絵』、『流行葉唄尾張じんく』、『大新板江戸いる里町中大はやり十二月歌この浦船』、『川上新作おっぺけペー歌入双六』などの貴重な錦絵資料の原本を閲覧することができた。それらの資料は近世流行歌謡史構築のための直接的な資料としてきわめて有意義なものであった。

また、山種美術館、たばこと塩の博物館、静岡市東海道広重美術館においても、葛飾北斎や安藤広重をはじめとする江戸期浮世絵師の多くの作品を展覧し、作品中に書き入れ

られた画賛の歌謡詞章を調査することによって、研究課題である近世歌謡史を考察する多くの材料を獲得することができた。

沼津市立図書館では郷土出身の偉人である白隠慧鶴の図書コーナーの書籍類を網羅的に閲覧し、白隠が創作した教化歌謡について調査することができた。これも近世歌謡史研究の推進のために意義のある調査となった。

この年度には単書『古典の叢智』（新典社）を刊行した。同書には日本古典を代表する名言として、複数の近世歌謡の歌詞を取り上げ、それが当時の人々にとってのどのような意味を持ったのか、また現代を生きる私たちにとってどのような意味を持ち得るのかについて言及した。また、奈良県吉野郡の丹生の太鼓踊りの歌謡詞章を解説した共著『丹生の太鼓踊り調査報告書』を刊行した。同書の解説中には近世歌謡との関わりについて多く指摘したが、それには本研究によって得られた成果が反映している。さらに雑誌論文「江戸期浮世絵の流行歌謡資料 歌川国丸「越後節画讃踊図」「追分節画讃踊図」、歌川芳年「庄内おばこ画讃役者図」紹介」（『学大國文』第59号）を発表した。同稿で紹介した三種類の絵画資料は、本研究課題のもとで収集したもので、それらの紹介および位置付けは近世歌謡史に多くの新知見をもたらした。

平成29年度は前年度までに調査が実施できなかった機関の調査を行い、当初予定の調査を完了させることに努めた。調査を行った機関は東京都立中央図書館特殊文庫（加賀文庫・東京誌料）、江戸東京博物館、国文学研究資料館、香川大学図書館神原文庫、大阪府立中之島図書館である。

東京都立中央図書館特殊文庫（加賀文庫・東京誌料）では、見立番付を中心とする瓦版やおもちゃ絵版画の原本を直接披見するとともに、写真をマイクロフィルムによって閲覧することができた。また、江戸東京博物館で

は大量のおもちゃ絵資料の写真を資料アルバムから閲覧することができた。国文学研究資料館においても同館所蔵のおもちゃ絵資料原本を直接披見した。さらに他館所蔵のおもちゃ絵資料の写真をマイクロフィルムのよって閲覧することもできた。香川大学図書館神原文庫では今日孤本となっていると推定される他館には所蔵されていない貴重な複数の瓦版原本を閲覧・調査することができた。大阪府立中之島図書館では見立番付の瓦版を披見することができた。

以上の結果、研究課題である江戸時代から明治時代初期にかけて摺られた瓦版やおもちゃ絵資料の中から大量の歌謡詞章を見出すことができ、それらの資料をもとに近世歌謡史の一齣を構築することが可能となり、たいへん有意義であった。

一方、わらべうたに関わる貴重なおもちゃ絵資料二点を購入した。近時それらの資料を紹介する予定であるが、これも近世歌謡史を構築する一助とすることができる資料として有意義なものである。

なお、この年度には奈良県五條市に伝承される篠原踊りの歌謡詞章を解説した『篠原おどり解説書 歌と踊りの歴史』を共著として刊行したが、そこにも近世歌謡からの視座を活用しており、本研究で得られた成果が色濃く反映している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

小野 恭靖、江戸期浮世絵の流行歌謡資料
歌川国丸「越後節画讃踊図」「追分節画讃踊図」、歌川芳年「庄内おばこ画讃役者図」紹介、学大国文、査読無、59号、2017、25 - 40

小野 恭靖、明治時代流行歌謡のおもちゃ絵資料、学大国文、査読無、58号、2015、21

- 36

小野 恭靖、『釈教和歌百人一首』翻刻と
解題、学大国文、査読無、57号、2014、27 - 46

小野 恭靖、ことば遊びと「語呂」、日本
語学、査読無、33巻5号、2014、38 - 48

〔図書〕(計5件)

小野 恭靖 他、五條市文化遺産活用実行
委員会、篠原おどり解説書 歌と踊りの歴史
、2018、132

小野 恭靖 他、下市町文化遺産活用実行
委員会、丹生の太鼓踊り調査報告書、2017、
118

小野 恭靖、新典社、古典の叡智 老いを
愉しむ、2017、240

小野 恭靖 他、奈良の文化遺産を活かし
た総合地域活性化事業実行委員会、吐山の太
鼓踊り調査報告書、2016、74

小野 恭靖、和泉書院、歌謡文学の心と言
の葉、2016、352

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~ono/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小野 恭靖 (ONO, Mitsuyasu)
大阪教育大学・教育学部・教授
研究者番号：50194600